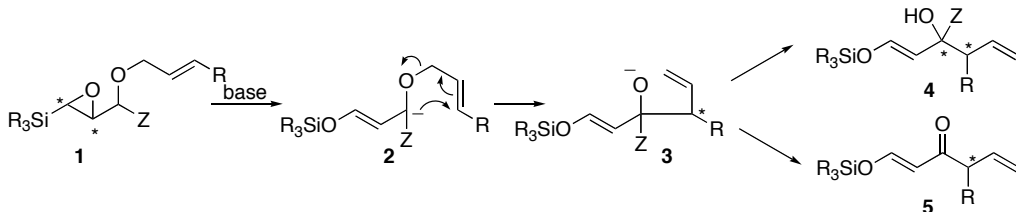


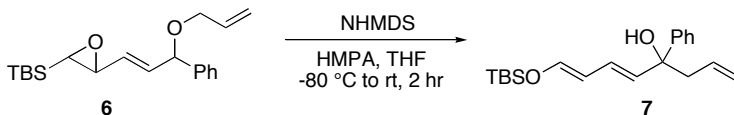
-アリルオキシエポキシシランのタンデム型反応:エポキシドの開環/
Brook転位/[2,3]-Wittig転位

佐々木 道子¹, 武田 敬¹(¹広島大院医歯薬)

【目的】エポキシシランの γ 位にカルバニオンを発生させると、エポキシドの開環/Brook転位が連続的に進行することから、¹ 光学活性なエポキシドを用いた場合、エポキシドの不斉がカルバニオンに転写されることが期待される。今回、 γ 位にアリルオキシ基を有するエポキシシラン **1** を塩基で処理すれば、発生したカルバニオン **2** が [2, 3]-Wittig 転位をおこし、光学活性な **4** あるいは **5** が得られるのではないかと考え、**1** に対応する基質の合成および塩基との反応を検討する。



【実験・結果】**1** のエポキシドとアリルオキシ基の間に二重結合を導入した基質 **6** を HMPA 存在下, NHMDS で処理すると、目的の連続反応が進行し、**4** に対応する **7** が得られた。



1) Sasaki, M.; Kawanishi, E.; Nakai, Y.; Matsumoto, T.; Yamaguchi, K.; Takeda, K. *J. Org. Chem.* **2003**, *68*, 9330-9339.